

愛媛県立大洲農業高校

大洲和紙の復活に向けて

～愛媛県立大洲農業高等学校 生活科学科被服組の取組～

私たちの取組は、復活していく大洲の伝統工芸・産業を継承及び復活させ、高校生の実践力により、新たな付加価値を付けた、活用方法を研究することで、より多くの方に「大洲の魅力」を伝えたいという思いで始めました。

今回は、大洲藩時代に日本一の産物と評判であった「大洲半紙」の衰退と継承の危機にある「大洲和紙」に着目しました。歴史を紐解きながら、当時の材料や製造方法の調査と伝統工芸師の方の指導を受け、自分たちも和紙を漉くことで「大洲和紙」のもつ魅力を体験し、その復活を目指します。

また、「大洲市がんばるひと応援事業」により、「大洲和紙」の製造だけでなく、様々な活用方法を研究していきます。今後、大洲の観光資源の増進や伝統産業の継承・復活を通じて観光化に向けて活動をしていきたいと考えています。

その第一歩として「大洲和紙」に親しむこととやわらかく輝かせることを利用してランプを製作しました。懐しの夜空に輝く交うホタルの風情を表現し、大洲らしさを醸し出した作品に仕上げました。

今後は、大洲の季節に応じたテーマに考えながら、大洲に住む方にも、そして大洲を訪れる観光客の皆様にも楽しんでいただきたいと思っています。

大洲和紙

大洲半紙（明治以前「大洲和紙」は、藩政時代から品産に盛れており、とくに江戸で好評を博していた。この大洲半紙は、内ノ子（現内子町）・大洲等内山郡一帯で多く生産され、安永年間には種（かじ）役所や紙造所を藩が設けて専売としていた。

明治5年に大洲半紙の専売が廃止となり、産業化が実現し暮らしたのだが、製品売りさばきの過熱に達したり、粗悪な原料を使って業者が紙をすかせて「大洲半紙」として売り出したりして、藩政時代には日本一の産物と評判であった「大洲半紙」も品質低下の憂が覆った。

また、外国からの洋紙の輸入もあり紙の消費が減少し、現在は、種やミヅマタを原料として大正時代に創業した「天神産紙工場」（現内子町五十崎）などが手書きの大洲和紙として残存している。

◆ ランプ製作風景 - 採用第1弾 -

◆ マリエール大洲研修

背景 愛媛県大洲市は、手漉き和紙の「**大洲和紙**」で江戸時代に栄えた歴史を持つ。

現状 出荷額全国**第3位**
全国シェア率**11%**

愛媛県の手漉き和紙出荷額
「平成20年度工業統計表（経済産業省）」

機械化や洋紙の輸入により次第に衰退

課題 紙産業の衰退の危機

「紙の町」四国中央市では、平成20年より「書道パフォーマンス甲子園」を開催

解決策 本校では、**平成24年度**より衣服への利用等、大洲和紙の普及活動を実践。

アピールポイント

「**芭蕉和紙**」とは？
愛媛大学社会共創学部福垣内先生が開発した最先端素材の**セルロースナノファイバー**を含んだ和紙のこと。

和紙産業衰退危機の原因

2021年から全国の和紙の原材料であった**トロロアオイ**の生産を中止。
その代替として、

愛媛県において、35年連続全国生産量第1位のキウイの**剪定枝**の粘り成分が利用できた！

さらに、
原料となる「**芭蕉（バショウ）**」は、愛媛県南予地域に多く自生するバナナ科の植物

お盆の棚飾りに利用されているが、時期が終わると、大量に廃棄され困っていた。



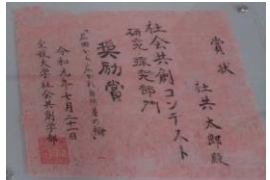
「芭蕉和紙」は他の和紙にない**特徴**があり、**農業用資材**として最適であった！！

耐水性

3ヶ月以上、水を通さない



染色性



アピールポイント



生徒の提案 生産科学科として、農業（**果実袋**）への活用はできないか？

農業高校として、地域に根付いた教育活動を実践

地域産業の復活 **農家の課題（ブドウの高温障害）解決**

「農業」を通して地域を興し、持続可能な農業を実践できる！

- (1) 「芭蕉和紙」という新たな和紙産業を築く
- (2) 和紙に興味を持つ後継者の育成
- (3) 基幹品種のピオーネの着色不良を改善
- (4) 地球に優しいブドウ産地の形成